



上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく すこやかな 上矢作の子

大 船 山

第 7 号

令和5年6月30日

ホームページ <http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/>



夏休みの作品・研究にじっくり取り組む効果とは

校長 細江 幸次

1 学期も残り3週間ほどとなりました。夏休みの計画を立てる時期になると、研究・作品の取組を通して自信をつけ、大きく飛躍した子どもたちの顔がたくさん浮かんできます。

30年ほど前、中学1年生を担当したとき、学級にちょっと風変わりな女の子がいました。人との会話が苦手ではほとんど言葉が出ないので、会話というものが成立しません。かといって、学級内で孤立するわけでもなく、いじめられるわけでもない不思議な存在でした。家庭訪問でもそのことについて母親に尋ねてみましたが、家庭内においても同様で、母親との会話はほとんどイラスト入りの筆談だということでした。

その年の夏休みの作品で、その子は身の回りにあるいろいろなものをモチーフに鉛筆によるスケッチを何枚も提出してきました。どれも中学1年生が描いたとは思えないくらい見事な作品です。しかも、一日一枚のペースで描いたようで、ほれぼれするようなスケッチが30枚ほどありました。あまりに見事だったので、何らかのコンクール・コンテストに応募できないものかといういろいろ調べてみましたが、スケッチブックに描いたデッサンを対象とするものは見つかりませんでした。作品返却時にその子には単なるデッサン集ではなく、何かテーマを決め、きちんと彩色もして学校外のコンクール・コンテストに応募できるようなものに挑戦してみることを話しました。

翌年は担任を外れましたが、夏休み後には何とまるで油絵のような静物画を水彩で仕上げてきました。美術担当と相談し、結構権威のあるコンクールに応募することができました。結果は何と「特選」。入賞作品が教育テレビでも紹介されました。翌年も全く別の題材で同様のコンクールに応募し、2年連続して「特選」を受賞しました。中学3年時も担任をしていましたが、学級内で彼女の絵を描く力は誰もが認めるものとなっていました。体育祭や文化祭での掲示物やPR用のポスターは全てその子が担当し、学校内でもかなり目をひきました。会話は依然と難しいままでしたが、夏休みの作品がきっかけで大きく自信をつけ飛躍した例のひとつです。好きなことに時間を費やし、納得のいくまで作品に取り組むことができたことがやはり大きかったなと思っています。その子は美術の力を生かしたいと考え、デザイン系の方向に進んだようです。

現在、夏休み前限定で発行している、「夏休み研究・作品がんばろう通信」で紹介している児童生徒作品についても同様のことがいえます。そのことを通してその後大きく成績を伸ばしたり、児童会・生徒会の中心的な役割を担って活躍したりするような姿をたくさん見た記憶があります。



粘土教室

目的がはっきりしていると誰もがこんな表情で取り組みます。夏休みもこんな感じでできると…